随筆

指導計画案

指導上の重点目標

【亀山殿の御池に】

1 「徒然草」や作者兼好についての知識を発表させる。
2 作者の論の展開のしかたを読み取らせる。
3 作者の考え方、感じ方を理解させる。

	学習活動	指導上の留意点
導入	❶「徒然草」と作者兼好について既習事項を発表する。知技	❶三大随筆のひとつであることや他の三大随筆を挙げさせる。また、作者兼好については出家遁世の身であることなどを押さえさせる。
展開	❶古語の意味・用法、文法事項に注意して現代語訳する。知技 →**「言葉と表現」1** ❷二つの場面と作者の考察について、内容をまとめて理解する。知技 思判表 →**「学習のポイント」1** ❸「その道を知れる者」とはどのような人のことを言うのか、話し合う。思判表 →**「学習のポイント」2**	❶用言の知識を確実なものにする。語の意味に関しては特に形容詞、形容動詞の意味を正しく理解し、そこから作者の価値観を捉えさせる。 ❷「大井の土民」と「宇治の里人」を描いた場面を二場面とし、それぞれから対応する言葉を抜き出しながら、整理していく。 ❸「道」という語の持つニュアンスを感じ取らせ、「名人」等と結びつけて理解させる。
まとめと発展	❶「その道を知れる者」にふさわしい人を、身近にいる人の中から選び、どのような点で「道を知れる」と言えるのか、発表させる。思判表 主態 →**「言語活動」1**	❶何人かで思いつく人を、どのような点がふさわしいかと合わせて、幅広く挙げさせ、その中から考え進め、自分の選ぶ人を決めさせるなどする。

【大事を思ひ立たん人は】 1　作者の論の展開のしかたを読み取らせる。 2　作者の考え方、感じ方を理解させる。	**展開**	❶「大事を思ひ立つ」ことを妨げるものを整理させ、まとめさせる。知技 思判表　→**「学習のポイント」1** ❷「少し心あるきは」とは、どのような人か、話し合わせる。知技 思判表　→**「学習のポイント」2** ❸本文中の近所の火事の例の表現上の効果について考えさせる。知技 思判表　→**「言葉と表現」1**
【奥山に猫またといふものありて】 1　話の筋を追って現代語訳する。 2　登場人物の心情を捉える。	**まとめと発展**	❶「少し心あるきは」はなぜ、「みなこのあらましにぞ一期は過ぐめる」のか、考えさせる。思判表 主態　→**「言語活動」1**
	展開	❶古語の意味・用法、文法事項に注意して現代語訳する。知技　→**「言葉と表現」1** ❷「猫また」のうわさを聞いて、法師はどのように思ったかを読み取る。知技 思判表　→**「学習のポイント」1** ❸「猫また」が現れた後の、法師の様子と行動をまとめる。思判表　→**「学習のポイント」2** ❹最後の一文の表現上の効果を考える。知技 思判表　→**「言葉と表現」2** ❺作者が法師をどのような人物として描こうとしているか、考える。知技 思判表 主態　→**「言語活動」1**

	❶同じようなものはまとめて、大別させる。 ❷「少し心あるきは」を正確に現代語訳することで考えやすくなる。 ❸火事の例で言いたいことを簡潔に捉えさせ、それが作者の最後の主張に果たしている役割を考えさせる。
	❶「少し心あるきは」がどのように行動するかを前に挙げられた例と合わせて考えると、理由を捉えやすい。
	❶伝聞推定の助動詞「なり」に留意する。話の展開が追えるように現代語訳させる。 ❷どのようなうわさがあったかをまとめておく。「思ふ」という動詞を手掛かりにそのうわさへの思いを読み取らせる。 ❸現代語訳をもとに、法師の描写を丹念に追って行けばよい。 ❹「おち」のある話なので、その「おち」を効果的にしている構成について考えさせる。 ❺場面ごとの心情から、法師の人物像をまとめさせる。その上で仏道に励む者の一般的なイメージと比べるとよい。

【花は盛りに】

1　作者があげた例に従って、
2　作者の主張をまとめる。
　作者の感じ方や考え方についてどのように思うか、まとめさせる。
3　随筆の特徴を捉えさせ、作品に興味を抱かせる。

展開

❶ 古語の意味・用法、文法事項に注意して現代語訳する。知技 思判表
→**「言葉と表現」1**

❷「花」「男女の情け」「月」のそれぞれについて、作者が好ましいと考えている状態をまとめる。知技 思判表
→**「学習のポイント」1**

❸「よそながら見る」とは、どのような態度か、読み取る。思 判表
→**「学習のポイント」2**

❹ 作者の立論のしかたの特徴を捉え、それをどのように評価するか考えさせる。主態
→**「言語活動」1**

まとめと発展

❶ 各章段における作者の主張をまとめ、さらにそれに対する自分の考えをまとめる。思判表

❷ 序段も参考にしながら、随筆の特色を理解し、作品内容の多様性に興味を持つ。思判表

❶ 係り結びや反語表現が作者の主張を効果的に見せていることに留意させる。

❷ 段落ごとに「花」「男女の情け」「月」と主題が分れているので、各段落を読みながらまとめさせる。一般的に好まれる状態と作者が好む状態とを対比的に捉えていくとまとめやすい。

❸ 物事の鑑賞態度のまとめである。「片田舎の人」の鑑賞態度が対照項目として挙げられているのでそれを参考にまとめるとよい。

❹ 反語の多用で、一般論を覆し、係り結びによって自分の主張を強調する作者のやり方を読み取る。その上で、作者の主張そのもののやり方について自分の考えをまとめる。自分で何かを主張する際の参考点や注意点とすることができるとよい。

❶ 各章段で読み取った作者の主張を改めて読み直させ、それに対する意見をまとめさせる。

❷ 序段の内容を整理させ、随筆の本質を述べていることを理解させる。そのうえで、読み取った各章段の内容の多様さを理解させ、他の章段への興味を抱かせる。

【単元の言語活動２　作者の主張を読み取る】

1　作者のもっとも主張したいことがどこに書かれているかを読み取らせる。

2　作者の主張に取り上げ方を比べ、意見を交換する。

展開	❶「亀山殿の御池に」「大事を思ひ立たん人は」で、作者がもっとも主張したいことが書かれている箇所を読み取る。思判表 ❷本文中で作者の主張がどのように扱われているか、考える。思判表
まとめと発展	❶「亀山殿の御池に」「大事を思ひ立たん人は」における作者の主張の取り上げ方を比べ、どちらが分かりやすいと思うか、意見を交換する。主態

	❶「亀山殿の御池に」「大事を思ひ立たん人は」で作者が最も主張したい箇所をワークシートに抜き出させる。 ❷「亀山殿の御池に」「大事を思ひ立たん人は」で、作者がもっとも主張したい部分がどの位置に置かれ、全体の構成がどのように組み立てられているか、確認させる。
	❶なぜ、分かりやすいと思うのか、その理由を具体的に示して意見を述べる。